

科 目	子どもと健康	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	<p>幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。</p>		
到達目標	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識・技能を身に付ける。		
学習成果の 評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度(主体性やグループワークなど)、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	乳幼児期の健康課題：健康の定義と乳幼児を取り巻く生活環境、乳幼児期の健康の意義	予習：幼児期の健康課題について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
2 .	乳幼児の身体の発達の特徴：乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達	予習：幼児期の身体の発達の特徴について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
3 .	乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得と乳幼児期の基本的な生活リズムの形成とその意義	予習：幼児期の生活習慣について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
4 .	子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理、リスクとハザードの違い	予習：子どもの安全管理について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
5 .	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置、病気の予防	予習：幼児期の病気や応急処置等について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
6 .	乳幼児期の運動発達の特徴、運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係	予習：幼児期の運動発達の特徴について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
7 .	日常生活における幼児の動きの経験や配慮、社会の変化と生活の中の身体活動の在り方	予習：社会変化や生活活動について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
8 .	遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	予習：遊びと運動について調べる(30分) 復習：本科目を振り返る(30分)	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『事例で学ぶ保育内容<領域>健康』(萌文書林)、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
参考書	適宜、資料を配布する		
学習成果の 評価方法	受講態度(40%)授業内課題および発表(60%)		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科目	子どもと表現	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	橋本真理子・樋口光融・恒賀康太郎	授業形態 単位数	1単位
授業概要	「表現とは何か」という問いに向き合いながら、幼児の表現を支える保育者としての感性や創造性を養い、幼児の表現活動の具体的な展開について学ぶ 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児期の表現活動を支援するための知識等について理解する		
学習成果の評価基準	領域「表現」の指導に関する知識等についての理解をワークシート・レポート等で評価し、授業内の発表やグループ活動を通して意欲・態度について評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス：「表現とは？」身体・気付き・対話をもとに「表現」を理解する。伝え合う、受けとめ合う体験を通して表現の生成過程を理解する	予習：テキストを読んでくる 復習：本時の内容を振り返る	
2.	音楽表現(音を奏でる)：自然・素材・生活との対話、からだの諸感覚をとぎすまし、素材の特性や多感覚性を生かす	予習：音楽表現の内容を読んでくる 復習：本時の学びを振り返る	
3.	造形表現(描く・つくる)：自然・素材・生活との対話、からだの諸感覚をとぎすまし、素材の特性や多感覚性を生かす	予習：造形表現の内容を読んでくる 復習：本時の学びを振り返る	
4.	身体表現(からだ・動き)：自然・素材・生活との対話、からだの諸感覚をとぎすまし、素材の特性や多感覚性を生かす	予習：身体表現の内容を読んでくる 復習：本時の学びを振り返る	
5.	他者との対話：コミュニケーションを通しての表現活動(複合的表現)	予習：テキストを読んで下調べをする 復習：本時の学びを振り返る	
6.	幼児の表現との対話：幼児の姿から読み取る。みて、感じて、共感し、受けとめる、分析的に読み取る	予習：テキストを読んで下調べをする 復習：本時の学びを振り返る	
7.	文化との対話：文化的な表現をもとに鑑賞遊びを通して「文化」に親しむ。文化的な表現を再構成し表現する	予習：テキストを読んで下調べをする 復習：本時の学びを振り返る	
8.	I C Tの活用と総括	予習：テキストを読んで下調べをする 復習：授業全体の学びを振り返る	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『事例で学ぶ保育内容<領域 表現>』(萌文書林)		
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』		
学習成果の評価方法	授業への参加(グループ活動、発表、模擬保育)(70%) 最終レポート(30%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受付	おたにオンライン、または各研究室で受け付けます		

科目	保育内容の理解と方法	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	橋本真理子・樋口光融・恒賀康太郎・吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、見立てなどの体を使った遊びや表現、身近な自然と音や人の声、音楽に親しむ遊びや表現、身近な自然と色や形、感触やイメージに親しむ遊びや表現、自らが児童文化に親しむ遊びと表現を豊かに展開するために必要な技術を実践的に習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(7)に対応する。		
到達目標	各領域について子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識をもとに、協働して教材等の活用や表現について実践的に取り組むことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している各領域について子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識を活用できているか、また、それにより協働して教材等の活用や表現について実践的に取り組むことができているかを評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業のねらいと進め方について	シラバス、テキストに目を通して くる 本時の内容を振り返る	
2.	ことば・物語・動きと音楽 具体的イメージを音にする活動。組み合わせる要素や素材を決め音楽を創作する。	好きな絵本・詩・絵・映像作品等 を1点以上準備する 本時の学びを振り返る	
3.	ことば・物語・動きと音楽 要素の関連や効果を味わい工夫しながら創作を行う。	創作したものの記録(記譜)を 行っておく。 本時の学びを振り返る	
4.	ことば・物語・動きと音楽 音楽とそれ以外の表現要素の関わりを工夫し、相互鑑賞を行う。	イメージが具体的音楽表現となる よう創作の完成、演奏練習を行 う。本時の学びを振り返る	
5.	造形表現作品創作：少人数によるグループ創作 題材(テーマ)の提示、造形の表現方法選択、制作	テキストを読んでくる 表現をより効果的に伝える方法を 考える	
6.	造形表現作品創作：少人数によるグループ創作 題材(テーマ)にそった制作および他領域の効果的な活用	制作物の完成と他領域の表現方法 の習得 本時の学びを振り返る	
7.	造形表現作品創作：グループごとの表現作品として完成と相互評価 他領域による効果と相互評価の重要性の理解	作品の見せ方の工夫と準備をする 本時の学びを振り返る	
8.	身体表現作品創作1：少人数によるグループ創作 題材(テーマ)の提示、気に入った場面のイメージ創作、動きによる即興表現	テキストの「身体表現」を読む 本時の学びを振り返る	
9.	身体表現作品創作2：動きによる即興表現をもとに、ひと流れの動きの創作(フレーズつ くり)	動ける身体の意識、フレーズから ストーリーを考える 本時の学びを振り返る	
10.	身体表現作品創作3：ひと流れの動きのフレーズをもとに、「はじめ-なか-おわり」の ストーリーを構成してまとめ、発表する。	動ける身体を意識する 「身体表現」の学びを振り返る	
11.	場面創作 写真・絵画をもとに物語を創作し、静止画として演じてみる。相互鑑賞を行う。	心揺さぶられる、劇的な写真や絵 画を探しておく。 本時の学びを振り返る	
12.	場面創作 テーマをもとに物語を創作し、演じてみる。相互鑑賞を行う。	テーマに基づいた評価の方法につ いて考えてくる 本時の学びを振り返る	
13.	場面創作 即興的に場面を演じる、歌を歌う、ダンスをすることを楽しむ。相互鑑賞を行 う。	自由に表現できる環境を整える方 法を考える 本時の学びを振り返る	
14.	学びをもとに、発表の方向性を考え、グループに分かれる。	これまでの授業の学びを表現でき るようにする 本時の学びを振り返る	
15.	表現内容グループごとにどんな発表にしていくなかを概要を考える。	発表のイメージ案をつくる。 授業全体の学びを振り返る	
教科書			
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』 『保育内容 表現 鈴木みゆき他 光生館』		
学習成果の評価方法	受講態度 (40 %) 授業内課題 (20 %) 授業内発表 (40 %)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受付	おおたにオンライン、または各研究室で受け付けます。		

科目	保育内容の理解と方法	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	橋本真理子・樋口光融・恒賀康太郎・吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を用いて、教材等の活用及び作成を通じて実践発表を行うとともに、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（2）に対応する。		
到達目標	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を用いて、教材等の活用及び作成を通じて協働して実践発表を行うとともに、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を用いて、教材等の活用及び作成を通じて協働して実践発表を行うことができているか、また、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得することができるかについて評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業のねらいと進め方について（手法：ベストミックス）	予：シラバス・テキストに目を通し、表現について予め調べておく 復：本時の内容を振り返る	
2.	グループによる表現内容（テーマ及び内容・手法）の検討と計画立案	予：自分が希望するテーマや内容をいくつか考えてくる 復：本時の内容を振り返る	
3.	計画に基づいたグループによる役割分担と制作・活動	予：グループの役割をもとに今後の見通しを考えてくる 復：本時の内容を振り返る	
4.	表現活動の創造（1）素材（もの・ことば・動き・楽器等）の吟味と関連領域の関わりの考察	予：表現内容と素材を関連付けて考えてみる 復：本時の学びを振り返る	
5.	表現活動の創造（2）素材（もの・ことば・動き・楽器等）の吟味と関連領域の基礎的事項の振り返り	予：表現内容から適した素材を予め考えておく 復：本時の学びを振り返る	
6.	表現活動の創造（3）素材（もの・ことば・動き・楽器等）の工夫と関連領域含めた構想の確立	予：素材選びをもとに、具体的な表現を考えてみる 復：本時の学びを振り返る	
7.	表現活動の創造（4）素材（もの・ことば・動き・楽器等）の効果的活用と関連領域の融合	予：素材の良さを生かしながら効果的な表現を考えておく 復：本時の学びを振り返る	
8.	中間発表に向けた準備（1）中間発表に向けた計画の進捗状況の把握と修正箇所の検討	予：表現を繰り返し振り返りよりよい表現について考えておく 復：本時の学びを振り返る	
9.	中間発表に向けた準備（2）表現内容に応じた工夫：各領域と関連性の考察	予：より効果的な表現を考える 復：本時の学びを振り返る	
10.	中間発表（交流）：表現の途中経過を概観することで、発表会に向けた見通しを持つ	予：中間発表に向けて表現についてグループで確認しておく 復：本時の学びを振り返る	
11.	表現作品・内容の構成の見直しと完成に向けた調整	予：作品の見直しに向けて具体的に確認しておく 復：本時の学びを振り返る	
12.	表現作品・内容の構成の見直しと完成に向けた調整	予：作品の見直しに向けて再度具体的に確認しておく 復：本時の学びを振り返る	
13.	表現作品の実践：「幼教こども劇場」	予：表現に向けて準備を整える 復：表現について振り返り、修正を考える	
14.	表現作品の実践：「幼教こども劇場」	予：表現に向けて準備を整える 復：表現について振り返り、修正を考える	
15.	表現作品の実践：「幼教こども劇場」を振り返り、これからの表現活動を展望する	予：表現に向けて準備を整える 復：作品創作、表現・グループ活動等を全体的に振り返る	
教科書			
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』 『保育内容 表現 鈴木みゆき他 光生館』		
学習成果の評価方法	受講態度（40%） 授業内発表（40%） 自由記述（最終レポート 20%）		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受付	おおたにオンライン、各研究室どちらでも受け付けます		

科目	音楽実技	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・片岡和代・楠美香・井浦芳恵・藤田桃子・吉賀貴子・中島美保	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの経験や想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。個人の音楽経験などによる差異に対応し、グループまたは個別的な指導を行う。		
到達目標	前期「音楽実技」を基礎に、主に「こどものうた」及び「こどものうたのピアノ伴奏」の学習を通して実践的に演奏技術、音楽表現力を習得する。また、子どもの音楽活動を展開するために保育者に必要な、音楽的知識も身につける。		
学習成果の評価基準	意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。課題曲の習得状況：必修課題曲数を保育の現場に耐えうるレベルで演奏できる。歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	演習【以下演習～の共通内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ） グループまたは個人指導の形態で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
2.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱とピアノはグループ内でのアンサンブルの形で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
3.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。（呼吸、体の使い方とそのコントロール）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
4.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」掲載曲の歌唱法を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
5.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
6.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。（姿勢、指の基礎運動、体の使い方等）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
7.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」掲載曲の伴奏法について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
8.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
9.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
10.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
11.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
12.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
13.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
14.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
15.	まとめ（演奏発表・実技試験）	より音楽的に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜し、ピアノに合わせて練習の事。	
教科書	「子どもたちの歌」		
参考書			
学習成果の評価方法	意欲、態度20% 課題曲の習得状況20%(終了課題曲数に応じ加点有) 歌唱技術15% 歌唱表現15% ピアノ奏法15% ピアノ表現15% について、授業内での状況を加味した評価各10%、実技試験時のみの評価各5%とする。		
特記すべき事項	保育者を志す者は履修を強く薦める。毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・教室は異なる。履修登録は、全員一括で行う為、履修を希望しない者は授業担当者（樋口）へ申し出る事。		
質問・相談等の受付	授業時（全体指導時・個別指導時）に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	音楽実技	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・片岡和代・楠美香・井浦芳恵・藤田桃子・吉賀貴子・中島美保	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの経験や想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。ここでは、前期の音楽実技 に続き、歌唱及びピアノ演奏についてより学びを深める。		
到達目標	前期の音楽実技 に続き、より実践的、かつより豊かな音楽的環境を保育の現場に提供できる保育者となることを目指し、歌唱及びピアノの演奏を通して音楽的感性を高め、技術・知識を習得する。ピアノ演奏、うたについてより多くの楽曲を通して学び、幼児の歌を自らのピアノ伴奏により弾き歌いできるようにする。		
学習成果の評価基準	意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。 課題曲の習得状況：必修課題曲数を保育の現場に耐えうるレベルで演奏できる。 歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。 歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。 ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。 ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ) グループまたは個人指導の形態で学習する。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
2.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 歌唱は自らのピアノ演奏に合わせた弾き歌いの形で学習する。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
3.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。(呼吸、体の使い方とそのコントロール)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
4.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」 段階の曲の歌唱法を学ぶ。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
5.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
6.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。(運指、体の使い方等)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
7.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」 段階以上の曲の伴奏法について学ぶ。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
8.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
9.	演習 【以下演習 ~ の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
10.	演習 【演習 ~ は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
11.	演習 【演習 ~ は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
12.	演習 【演習 ~ は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
13.	演習 【演習 ~ は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
14.	演習 【演習 ~ は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
15.	まとめ(演奏発表・実技試験)	豊かな表現で演奏できるよう練習を重ねておく。日頃から弾き歌いを心掛けること。	
教科書	「子どもたちの歌」		
参考書			
学習成果の評価方法	意欲・態度20% 課題曲の習得状況20%(終了課題曲数に応じ加点有) 歌唱技術15% 歌唱表現15% ピアノ奏法15% ピアノ表現15% について、授業内での状況を加味した評価各10%、実技試験時のみの評価各5%とする。		
特記すべき事項	保育者を志す者は履修を強く薦める。毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・教室は異なる。履修登録は、全員一括で行う為、履修を希望しない者は授業担当者(樋口)へ申し出る事。		
質問・相談等の受付	授業時(全体指導時・個別指導時)に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科 目	子ども家庭支援の心理学	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	生涯発達と初期経験に関する心理学の基礎的な知識と初期経験の重要性、発達課題について学ぶ 現代における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を学ぶ 子育て家庭を巡る現代の社会の状況と課題について学ぶ 子どもの精神保健とその課題について学ぶ 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	現代の子ども家庭の現状や心理状態を学び、家庭支援の意義と効果が理解できるようになる 現代における家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を理解することができる 子育て家庭を巡る現代の社会の状況と課題について理解することができる 子どもの精神保健とその課題について理解することができる		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している、家庭の現状や心理状態の学びの達成度を測るために、授業において確認テストを実施して評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 生涯発達と家族	シラパスを読み、家庭支援とは何か事前に調べておく	
2 .	乳幼児期における発達	テキストを参考に乳児期の対応を振り返る	
3 .	学童期における発達	テキストを参考に学童期の対応を振り返る	
4 .	青年期における発達	テキストを参考に青年期の対応を振り返る	
5 .	成人期・老年期における発達	テキストを参考に成人・老年期の対応を振り返る	
6 .	家族・家庭の意義と機能	テキストを参考に家族・家庭の意義と機能を振り返る	
7 .	親子関係・家族関係の理解	テキストを参考に親子関係・家族関係の理解を振り返る	
8 .	子育ての経験と親としての育ち	テキストを参考に、子育ての経験と親としての育ちを振り返る	
9 .	子育て家庭に関する現状と課題	テキストを参考に子育て家庭に関する現状と課題を振り返る	
10 .	ライフコースと仕事・子育て	テキストを参考にライフコースと仕事と家庭機能との関係を振り返る	
11 .	多様な家庭とその理解	テキストを参考に多様な家庭とその理解を振り返る	
12 .	特別な配慮を要する過程	テキストを参考にトラウマや虐待への関わりを振り返る	
13 .	子どもの生活・生育環境とその影響	テキストを参考に子どもの現状について振り返る	
14 .	子どもの心の健康に関わる課題	テキストを参考に子どものこころの健康の問題を振り返る	
15 .	まとめ	授業全体の振り返りをしておく	
教科書	『子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」』晃洋書房		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(10%) 授業内課題(50%) レポート(40%)		
特記すべき 事項	臨床心理士として11年の実務経験を有しています。 各授業において予習2時間・復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付	研究室に聞きに行く		

科目	保育内容・健康	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「健康」の指導に関する、幼児期の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。また、幼児期の身体や動作の特性、視線の動態等を把握し、指導上の留意点を明確にした指導案の立案、映像の即時フィードバックにて学習者の動きを可視化し、意欲・技能の向上を図るための情報機器（タブレット端末やビデオカメラ等）の活用法を学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	領域「健康」は「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。幼稚園教育要領等に示された幼稚園教育・保育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達と学びの過程を理解し、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びの過程を踏まえ具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる（技能）。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度（主体性やグループワークなど）、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 領域「健康」とは	予習：「健康」とは何が考える（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
2.	幼児の発育・発達（1）こころ・人間関係・社会性	予習：幼児の発育・発達について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
3.	幼児の発育・発達（2）からだ・運動機能	予習：幼児の発育・発達について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
4.	幼児の発育・発達（3）体格・運動能力の現状と課題	予習：幼児の発育・発達について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
5.	運動の発達の特性と動きの獲得 - 情報機器及び教材の効果的な活用	予習：運動の発達の特性について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
6.	幼児期における運動あそび(個人及び集団)	予習：幼児期の運動あそびについて調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
7.	幼児期における運動あそびの実践	予習：幼児期の運動あそびについて調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
8.	幼児の生活習慣（1）自立と支援、食育	予習：幼児の生活習慣について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
9.	幼児の生活習慣（2）年間行事（遠足、運動会等）の意義と目的	予習：幼児の生活習慣について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
10.	幼児の安全管理・安全教育	予習：幼児の安全管理について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
11.	応急処置（実践）	予習：応急処置について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
12.	領域「健康」に関わる保育の計画と指導案 幼児の動きや視線の特徴に着目した情報機器や教材の活用	予習：保育の計画について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
13.	領域「健康」に関わる模擬保育の実践（1）室内環境	予習：模擬保育の内容について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
14.	領域「健康」に関わる模擬保育の実践（2）屋外環境	予習：模擬保育の内容について調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
15.	リフレクション（模擬保育及び領域「健康」の振り返り）	予習：これまでの内容を振り返り整理する（30分） 復習：本科目を振り返る（30分）	
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域健康』（無藤隆著、萌文書林）、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社）		
参考書	『幼児期運動指針』（文部科学省）、『アクティブチャイルドプログラム』（日本体育協会） 適宜、授業中に資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、授業内課題および発表（20%）、定期試験（60%） 授業内容については随時フィードバックを行い、理解度を高める		
特記すべき事項	実際に屋内外にて身体を動かす場面があるため、体調管理には留意しておく		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科 目	保育内容・環境	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領1領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程 領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。また、情報機器を利用し、より具体的に幼児と環境との関わり方の理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する （2）幼児の発達や学びの過程を理解し、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。		
学習成果の評価基準	授業内の課題プリントの提出と合わせて、期末の定期試験を用いて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	幼児教育の基本と保育内容「環境」	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を読んでおく	
2 .	子どもの発達と領域「環境」	実習で得てきた学びをまとめておく	
3 .	領域「環境」のねらい、内容の展開 園外活動、園内活動の映像から、好奇心や探究心をもって関わる体験を考える	幼稚園教育要領解説の該当箇所を読んでおく	
4 .	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 (計画立案)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく	
5 .	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 (模擬保育)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく	
6 .	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 (栽培の実際)	自身の植物とのかかわり体験を振り返っておく	
7 .	標識、文字等に関わる保育の実際 (情報機器及び教材を活用し視覚的に理解する)	自身と視覚的情報にかかわる生活行為についてまとめておく	
8 .	数量、図形等に関わる保育の実際 (1) 遊びの中での、標識、文字、情報にふれる活動	数量・図形・文字にかかわる生活行為についてまとめておく	
9 .	数量、図形等に関わる保育の実際 (2) 数量、図形への関心、感覚を豊かにする活動	数量・図形・文字にかかわる生活行為についてまとめておく	
10 .	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 日本文化、異文化に触れる (情報機器及び教材を活用し視覚的に理解する)	自身の年中行事・季節行事の体験を振り返っておく	
11 .	身近な素材や自然物を用いた保育の実際 (計画立案する)	探求したい材料を用意しておく	
12 .	身近な素材や自然物を用いた保育の実際 (素材の収集)	探求したい材料を用意しておく	
13 .	身近な素材や自然物を用いた保育の実際 (模擬保育)	探求したい材料を用意しておく	
14 .	身近な自然物や物に関わる保育の実際 (模擬保育の振り返り)	探求したい材料を用意しておく	
15 .	環境に関わる現代的課題 (ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育)	配布プリントを読んでおく	
教科書	『保育内容「環境」』（柴崎正行・若月芳浩著、ミネルヴァ書房） 授業中に適宜資料を配布する		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社）		
学習成果の評価方法	受講態度 20%、授業内課題 30%、定期試験 50% 授業内課題での取り組みは、その都度授業内でフィードバックする。		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科 目	保育内容・人間関係	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「人間関係」の指導法の基盤となる、幼児と人との関わる力の育ちに関する保育内容の指導法についての知識を身につける。また、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえて保育を構想する方法を身に付ける。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	「人間関係」の目標やねらい内容等を、発達や生活および遊びなどと関連付けながら、演習をとおして具体的に理解する。また、情報機器及び教材を利用し子どもを取り巻く人間関係の在り方の理解を深める。		
学習成果の評価基準	「人間関係」の目標やねらい内容等を、発達や生活および遊びなどと関連付けながら、授業内演習および発表や課題で評価する。 また子どもを取り巻く人間関係の在り方の理解が深ったか、授業内演習および発表や課題で評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 領域「人間関係」とは	教科書読んでおくこと	
2 .	保育者との信頼関係と安定感を形成する方法について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
3 .	自立心を育む援助の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
4 .	事例検討：模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係（1）3歳未満児	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
5 .	事例検討：模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係（2）3歳以上児	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
6 .	事例検討：模擬保育をとおしての遊びの発達と人間関係（3）共同性の育ち	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
7 .	自己覚知と他者理解の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
8 .	幼児の葛藤とルールの在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
9 .	ルールのある遊びと援助の在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
10 .	道徳性・規範意識の芽生えについて（情報機器及び教材の活用を含む）	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
11 .	個と集団の育ちについて（情報機器及び教材の活用を含む）	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
12 .	保育場面での気になる子どもとのかかわり方と方法の検討	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
13 .	地域の人達との繋がりを子ども達について（情報機器及び教材の活用を含む）	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
14 .	多様な人、多様な子どもとの関わりの在り方について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
15 .	まとめ 専門性を持った保育者としての保育についての検討	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
教科書	『領域 人間関係ワークブック』村田・室井（著）（2017）萌文書林 『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見（著編）（2017）学		
参考書	『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省（著）（2018）		
学習成果の評価方法	定期試験（50%）課題・発表（30%）その他（レポート・受講態度）20%		
特記すべき事項	保育士（9年） 精神保健福祉士（1年） 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: miyadi@kyushuotani.online		

科目	保育内容・表現（音楽）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力さらには幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿について、他領域と関連を図りながら具体的な指導計画を作成し、演習等を通して知識と技能を学ぶと同時に、保育内容表現に関する必要な能力を身に付けていく。さらに、情報機器を用いた表現活動の方法を学び視野を広げる。		
到達目標	実践的な表現活動における知識や技能を身に付けて、幼稚園教育要領に示された保育内容「表現（音楽）」の背景にある専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、情報機器及び教材等を活用し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を身に付ける。		
学習成果の評価基準	音環境、素材や楽器の特性と扱いについての知識や技能を身につけている。対象理解や環境条件に基づき、子どもの主体的な遊びと育ちのための、音感受や音楽的表現に関する保育のねらいを設定して保育の展開が出来る。また、これらの事が分かる保育計画の作成と模擬実践が出来る。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 音楽活動の作成1 - 物語と音楽（1）編曲と音素材の選択	シラバスおよび使用教材全体に目を通しておく	
2.	音楽活動の作成1 - 物語と音楽（2）創作・編曲と楽譜の作成	題材とする物語を選択し、使用する音素材を探しておく	
3.	音楽活動の作成1 - 物語と音楽（3）発表と評価	楽譜の作成	
4.	音楽活動の計画（1）指導案（部分案）の作成～ねらいと活動～効果的な情報機器の活用-	幼稚園教育要領解説の2章2節を読み整理しておく	
5.	音楽活動の計画（2）歌う活動	指導案の作成	
6.	音楽活動の計画（3）年間指導計画と活動の分類 - 視覚・聴覚の相互作用に着目した情報機器の活用-	指導案の完成	
7.	音楽活動の作成2 - 合奏活動（1）音楽的発達の段階と活動の選択、展開の方法	題材楽曲を選択し、ピアノ譜を演奏できるようにしておく	
8.	音楽活動の作成2 - 合奏活動（2）ピアノ譜をもとにした合奏譜の作成	合奏内容を決定しピアノ譜に書き込んでおく	
9.	音楽活動の作成2 - 合奏活動（3）発表と評価	楽譜の作成	
10.	音楽活動の作成3 - リトミック（1）音楽と身体的反応	題材として使用する任意の曲1曲をピアノで演奏できるよう練習しておく	
11.	音楽活動の作成3 - リトミック（2）保育者の即興的表現	題材として使用する任意の曲2曲をピアノで演奏できるよう練習しておく	
12.	聴く活動の実際	子どもに聞かせたい音楽（演奏）とそのねらいの説明を準備する	
13.	指導計画の作成と模擬実践（1）保育者の援助の在り方	使用する題材の選択と準備	
14.	指導計画の作成と模擬実践（2）音楽活動の評価	指導案の作成	
15.	指導計画の作成と模擬実践（3）発表と評価	指導案の完成	
教科書	『幼児のための音楽教育』（教育芸術者）、『子どもたちのうた』、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
参考書			
学習成果の評価方法	レポート（50%） 受講態度及び取り組み（50%）		
特記すべき事項	演習1単位授業：各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業時及び研究室に室時に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	保育内容・表現（造形）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	恒賀康太郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力さらには幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿について、情報機器を活用して他領域と関連を図りながら具体的な指導計画を作成し、演習等を通して知識と技能を学ぶと同時に、保育内容表現に関する必要な能力を身に付けていく。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	幼稚園教育要領に示された保育内容「表現（造形）」の理解を深め、情報機器及び教材等を活用し、具体的な指導場面を想定した保育方法を構想する。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している幼稚園教育要領に示された保育内容「表現（造形）」の理解を深めるとともに、情報機器及び教材等を活用しているか、また具体的な指導場面を想定した保育方法を構想することができているかを評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	幼稚園教育要領「表現」のねらい及び内容を知り、発達や学びの過程を理解する。	教育要領を読んでおくP17～	
2.	様々な領域の関連性について理解を図り、表現活動や遊びの本質を理解する。	表現活動と遊びについて該当ページを読んでおくP22～	
3.	幼児の表現活動の思いやイメージを感じるとともに、より豊かにする環境構成や言葉掛けについて考える。	表現活動と感性について考えを持っておく。P25～	
4.	造形活動の創造（1）遊びの要素となる基礎的事項を学ぶことを通して、幼児期の表現活動を考察する（情報機器及び教材を活用した表現遊びや発話）	遊びの要素としての造形活動を知る。P33～	
5.	造形活動の創造（2）遊びの要素となる基礎的事項を振り返り、より豊かな表現活動を考察する	遊びの要素となる素材について配布プリントを予習する	
6.	造形活動の創造（3）遊びの要素となる基礎的事項を活用し、造形活動の在り方を考察する。	実際の素材を使って体験するため準備を揃えておく	
7.	表現を通じた遊びの交流及び体験を通して、幼児の遊びの在り方について考える	交流の感想をもとに、より良い活動を考える。	
8.	保育者の役割（1）構想と計画及び評価についての保育者としての基礎知識を学ぶ	保育者の役割について見通しを持っておくP49	
9.	保育者の役割（2）構想を基にした指導計画および指導案の作成の仕方について学ぶ	指導案の書き方を予習しておく。P97	
10.	保育者の役割（3）「表現」にかかわる指導案の構造を知り、作成する	指導案を書くことで、活動の見通しが持てるようにする。	
11.	実践（1）指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える（3歳児）	指導案をもとに活動を行い、振り返る。	
12.	実践（2）指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える（4歳児）	指導案をもとに活動を行い、振り返る。	
13.	実践（3）指導案をもとに、模擬保育等の実践を通してよりよい「表現」活動を考える（5歳児）	指導案をもとに活動を行い、振り返る。	
14.	様々な素材や情報機器及び教材を生かした表現活動に関する取り組みを調べ、幼児の表現活動についての視点を増やす	予め新しい素材や情報機器を活用した活動を調べておく	
15.	これまでの学びを振り返り、幼児の表現活動について考える	振り返りを今後に生かす。	
教科書	『造形表現』（一藝社）『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社）		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%） 小テスト（40%） 授業内課題（50%）		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	教育方法論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	山田俊之	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	教師(保育者)としての教育方法の基礎と実践を学ぶことができる。 保育の目標を踏まえ、保育方法、保育を構成する要件、評価の基本的な考え方を理解できる。 保育を行う上での基礎的な技術を理解し身につける。(情報機器の活用を含む)		
学習成果の 評価基準	教師(保育者)としての教育方法の基礎と実践を学ぶことができたか、レポート等で評価する 保育の目標を踏まえ、保育方法、保育を構成する要件、評価の基本的な考え方を理解度をレポート、定期試験等で評価する		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	はじめに この授業の目標と概要を理解する		
2.	要領・指針(1) 幼稚園教育要領を読み、理解する	配布資料を確認する。	
3.	要領・指針(2) 保育所保育指針を読み、理解する	配布資料を確認する。	
4.	要領・指針(3) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、理解する	配布資料を確認する。	
5.	教育理論(1) ルソー「エミール」の思想を理解する	配布資料を確認する。	
6.	教育理論(2) フレーベル・モンテッソーリの保育思想を理解する	配布資料を確認する。	
7.	教育理論(3) 児童中心主義の保育思想を理解する	配布資料を確認する。	
8.	教育理論(4) 真宗保育の保育思想を理解する	配布資料を確認する。	
9.	保育方法(1) 保育を構成する基礎的な要件を理解する	配布資料を確認する。	
10.	保育方法(2) 学習評価の基礎的な考え方を理解する	配布資料を確認する。	
11.	保育技術(1) 保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける	配布資料を確認する。	
12.	保育技術(2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて学生指導案を作成する力を身に付ける	配布資料を確認する。	
13.	保育技術(3) 情報機器を活用した教材を作成・提示する力を身に付ける	配布資料を確認する。	
14.	保育技術(4) 子どもたちの情報活用能力育成のための指導法を理解する	配布資料を確認する。	
15.	おわりに これまでの講義を振り返る	配布資料を確認する。	
教科書	参考書・参考資料等 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
参考書	授業内において適宜プリントを配布する		
学習成果の 評価方法	定期試験 (30%)、出席状況(30%) 授業への取り組みと小レポート(40%)		
特記すべき 事項	授業でグループワーク、ディスカッション、発表を取り入れる。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付	随時メールで受け付ける。面談も可。		

科 目	子育て支援	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	岡田健一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>保育士の業務の二本柱は、児童に対する保育と保護者に対する相談支援（子育て支援）である。様々な事情を抱えた保護者が子どもの成長を喜べるようになるために、保育者にできる役割はたくさんある。本授業では、演習問題や事例検討を通し、具体的な関わりを理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（2）に対応する。</p>		
到達目標	<p>1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する 2．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している2点の到達度を測るために、授業課題と到達度確認テストを実施し、評価する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1．	保育士の行う子育て支援の特性1：子どもの保育とともにを行う保護者の支援、日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	教科書第1章を読む	
2．	保育士の行う子育て支援の特性2：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	教科書第1章を読む	
3．	保育士の行う子育て支援の展開1：子ども及び保護者の状況・状態の把握、保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	教科書第2章を読む	
4．	保育士の行う子育て支援の展開2：支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録・評価・カンファレンス、職員間の連携・協働	教科書第3章を読む	
5．	保育士の行う子育て支援の展開3：社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	教科書第4章を読む	
6．	とも育てを支える相談支援の基礎	教科書第5章を読む	
7．	保育士の行う子育て支援とその実際1：保育所等における支援	教科書第6章を読む	
8．	保育士の行う子育て支援とその実際2：地域の子育て家庭に対する支援	教科書第7章を読む	
9．	保育士の行う子育て支援とその実際3：障害のある子ども及びその家庭に対する支援	教科書第8章を読む	
10．	保育士の行う子育て支援とその実際4：特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	教科書第9章を読む	
11．	保育士の行う子育て支援とその実際5：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	教科書第10章を読む	
12．	保育士の行う子育て支援とその実際6：子ども虐待の予防と対応	教科書第11章を読む	
13．	保育士の行う子育て支援とその実際7：要保護児童等の家庭に対する支援	教科書第12章を読む	
14．	幼児の生活とメディア	小冊子「幼児・生活・メディア」を読んでくる	
15．	まとめ	授業で学んだことをまとめ、理解を確認する	
教科書	太田光洋(2021):子育て支援演習、建帛社。 NPO法人子どもとメディア(2017):幼児・生活・メディア-テレビ・DVD・スマホ・タブレットとうまくつきあうために。		
参考書	二宮祐子(2018):子育て支援-15のストーリーで学ぶワークブック-。萌文書林。		
学習成果の評価方法	授業課題50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 担当者は、臨床心理士として19年の実務経験		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話が研究室で受け付ける。		

科目	子ども理解と教育相談	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	徳本 祥	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>1 幼児期の心身発達を理解できる。2 幼児のアセスメント方法としての観察や記録、発達検査について学ぶ。3 集団の中での幼児の実態への理解を通して幼稚園での育ちを知る。4 幼児のつまずきが現れる背景を知る方法を学ぶ。5 幼児とその家庭に関する臨床的問題の実際や現代の教育現場に於ける諸問題を理解する。6 多様な保護者・様々な問題を抱える子どもの理解と支援の方法を学ぶ。</p> <p>以上について自分が実際に教職に就いて様々な問題に直面したとき、どう判断しどう行動するかを考えることと同時に、共に学ぶ他の学生がどのような考えを持っているかを聞くことの両方を大事にしながら、授業を進めていく。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。</p>		
到達目標	<p>1 幼児期の心身発達理解を理解できる。</p> <p>2 幼児の行動の背景を心理学的に理解し、観察や記録を通してアセスメントできる。</p> <p>3 個と集団の関係を捉え、幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から検討できる。</p> <p>4 高度専門職人を目指す者として幼児教育に於ける教育相談並びに保護者対応の重要性を理解し教育相談に必要な傾聴姿勢と技能を身に付ける。</p>		
学習成果の評価基準	<p>毎回講義内容をノートする</p> <p>中間試験、期末試験で6割以上得点する</p>		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	幼児を理解するために。幼児理解の意義	「大人」と「子供」の違いを考へてみる	
2.	幼児理解の基盤；乳幼児発達	乳幼児発達の過程を振り返る	
3.	幼児理解のための教師の態度：教師のまなざしと関わり	乳幼児期の「母子関係」の発達を振り返る	
4.	幼児の環境理解：個と集団、大人と子ども	「環境移行」の意味を調べる	
5.	幼児理解のための観察と記録の方法：子ども理解と私理解	保育者の対場ではなく幼児の立場に立った幼児理解を学ぶ	
6.	幼児のつまずきを理解する(1)：発達の節目に現れるつまずきと幼児に現れる心身の症状	各発達段階特有の「気になる症状や行動」を調べる	
7.	幼児のつまずきを理解する(2)：幼児を取り巻く環境	幼児を取り巻く環境が発達するにつれどう変化するか考える	
8.	保護者の心情と基礎的対応の理解	保護者が「我が子の発達とそのつまずき」をどう理解する傾向があるか考へてみる。	
9.	教育・保育の現場における教育相談の意義と課題	保護者と「信頼関係」を結ぶために保育者が日常心がけるべきことを考へる	
10.	子どもの教育相談に関わる心理学の基礎的理解	「カウンセリング」の言葉の意味を調べる	
11.	子どもの不適応や問題行動の意味とシグナルへの対応	人間の行動の持つ「意味」を理解するにはどうすればよいか考へる	
12.	カウンセリングマインドの必要性	「受容」、「共感」、「傾聴」の意味を調べる	
13.	受容・傾聴・共感的理解の実際：ロールプレイ	援助を求める子どもや保護者の思いを想像する	
14.	教育相談の実際：いじめ、不登園、虐待などの事例から学ぶ	相談援助における「個別化原理」の意味を調べる	
15.	教育相談の展開：教育相談の計画や体制の整備及び他職種連携	保育所・幼稚園は活用できるどんな「社会資源」を持っているか調べる	
教科書	『幼児理解と保育援助』(森上史朗・浜口順子著、ミネルヴァ書房) 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド)		
参考書	『発達の手帳～子どもの発達の道筋(上・下)』(白石正久著、かもがわ出版)、『保育臨床相談(新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る)』(小田豊・中橋美穂・菅野信夫著、北大路書房)		
学習成果の評価方法	小テスト(30%) 授業内課題(30%) 定期試験(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後に学修支援室で受け付けます。		

科 目	教育・保育実践演習	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	庄籠道子・徳本 祥	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	授業目標に属するテーマを幾つか選び、テーマ毎にまず教員が講義し、それを基にグループで資料を作成し発表し、発表グループ以外のグループは発表を評価する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	必修科目講義や実習での学びを通じ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認する		
学習成果の評価基準	毎回の講義の終わりに「今日、自分が学んだこと」のレポートを書いて提出し、自分の学びを自覚する。そのレポートで到達目標に明示している「保育者として必要な知識技能」の達成度を測り評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	個人ワーク 自分の現在までの実習を振り返ってみる:評価票と自分の実感との比較	今までの実習についてまとめておく	
2 .	講義 クラス担任の役割、単独担任と複数担任	実習で見たクラス担任についてまとめておく	
3 .	講義 +個人ワーク :年度初めの保護者へのあいさつ、保護者との信頼関係作り	実習で体験した保護者との関わりについて振り返っておく	
4 .	講義 「保育カリキュラム」について	実習で体験した「保育カリキュラム」について振り返っておく	
5 .	講義 行事のねらいについて	実習で体験した「行事」について振り返っておく	
6 .	グループワーク 作成した「月案」の発表、評価	実習で体験した「月案」について振り返っておく	
7 .	グループワーク 作成した「行事計画案」の発表、評価	実習で体験した「行事計画」について振り返っておく	
8 .	講義 年齢別基本的生活習慣指導について	これまでに学んだ「年齢別基本的生活習慣」についてまとめる	
9 .	グループワーク 「基本的生活習慣指導案」の発表	「年齢別基本的生活習慣指導案」についてまとめる	
10 .	グループワーク 「基本的生活習慣指導案」の発表、評価(2)	「年齢別基本的生活習慣指導案」についてまとめる	
11 .	講義 クラス作り作成のポイント	実習で体験した「クラスだより」について振り返っておく	
12 .	講義 保護者への対応	実習で体験した「保護者への対応」について振り返っておく	
13 .	グループワーク 「保護者への対応事例」ロールプレイング	前回の講義を振り返っておく	
14 .	グループワーク 「クラス作り」発表	クラスだより作成のポイントを振り返っておく	
15 .	講義 : 幼小連携について	前回までの復習	
教科書	随時資料プリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(50%) 授業内発表(30%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後に学修支援室で受け付けます		

科 目	教育実習指導	開講時期 履修方法	2年通年 選択、専門科目
担当者	宮地あゆみ・樋口光融	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	事前指導では教育実習生として教育活動に補助的な役割を担う意識を高めるとともに指導案の作成方法を学ぶ。事後指導では教育実習を経て得られた知識と経験を振り返り自己課題を明確にする。 本授業は幼児教育学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	幼稚園教育において必要な資質・技能を学び、教育者としての愛情と使命感を深める。そのため、実習を踏まえて子どもの実態と向き合い、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目標とする。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度(主体性やグループワークなど)、レポート等の提出物により総合評価し、総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ガイダンス/法的位置づけや実習に向けての遵守すべき義務等を振り返り心構えを新たに する	実習スケジュールや事務手続きについて確認しておく	
2 .	保育に必要な形態・展開・環境構成の技術を学び、園の特色ある教育活動について事前に調 べ指導計画の手順・考え方及び作成方法を踏まえ指導計画の作成する	課題作成	
3 .	環境構成について検討し、安全への配慮や図に示せないことなどを文章で補足する	課題作成	
4 .	子どもの姿及びねらいについて書くべき内容を学び、それを参考にしながら調べた活動のね らいを明らかにする	課題作成	
5 .	子どもの発達による変容をもとに、年齢や発達段階に応じて活動を計画する	課題作成	
6 .	ねらいに基づいた具体的な活動内容について、発達や経験、興味や時期等を記述する 巡回担当者に巡回依頼をする	課題作成	
7 .	実習の心構えの確認をする	課題作成	
8 .	遊び・活動等の教材研究を進め、全日及び部分実習の指導案の作成をはじめ、表紙セットの 記入をする	課題作成	
9 .	実習の振り返りをする	日誌を見直しておく	
10 .	発表資料の作成及び発表原稿を作成する1 配布資料用	必要な資料の作成準備と整理をし ておく	
11 .	発表資料の作成及び発表原稿を作成する2 プレゼンテーション用	必要な資料の作成準備と整理をし ておく	
12 .	実習報告会に向けての要点の整理をする	必要な資料の作成準備と整理をし ておく	
13 .	実習報告会1 自分の実習の報告をする	発表資料を作成し、質疑応答への 準備をしておく	
14 .	実習報告会2 他の人の実習報告を聞く	発表資料を作成し、質疑応答への 準備をしておく	
15 .	情報交換会 1年生との実習情報の交換会をする	実習を振り返り、課題克服や達成 に向けて取り組んでおく	
教科書	『保育実習・幼稚実習』太田光洋(2018)保育出版会、『手遊び百科』植田編(2006)ひかりのくに、『遊びの指導』幼少年教育研究所(2009)同文書院		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		
学習成果の評価方法	態度・マナー(30%)、手続き(20%)、事前学習(20%)、事後学習(20%) 詳細については1回目の講義にて説明する		
特記すべき事項	「より良い実習」を実現するために欠席はしないように。実習期間中に1回、指導教員が実習園へ行き巡回指導を行うが、諸事情により困難が生じる際はそれに準ずる巡回指導をする		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: miyadi@kyushuotani.online		

科 目	教育実習	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	宮地あゆみ・樋口光融	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。本授業は幼児教育学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	様々な活動の場面で適切に幼児と関わり、教諭としての必要な資質・技能の向上を図る。 適切な援助や指導について学ぶとともに、幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 自己の幼稚園教諭像を形成し、その実現に向けて課題を明確化するとともに適切な場面で情報機器を活用することができる。		
学習成果の評価基準	授業成績は、実習への取り組み態度、および提出物等により、園評価と大学評価にて総合評価し、総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>各自が選定し、大学が決定した実習園にて実習(2週間) 主に、以下の内容について実践し、学びを深める。</p> <p>実習園について理解する。1日の流れや教育環境を把握する。保育以外の、幼稚園教諭としての仕事や、職員間の協働・連携について具体的に理解する。</p> <p>配属クラスにおいて、担任教師の助手的な立場で、教師の援助や指導の具体的な内容と方法を知る。</p> <p>配属クラスにおいて、幼児の発達や特性についての、個人差に応じた援助や指導の方法を知り、実践を通して学ぶ。</p> <p>配属クラスにおいて、子どもたちの実態の理解に努め、実習園の指導計画を理解し、部分保育を担当する。</p> <p>配属クラスにおいて、子どもたちの実態の理解を深め、実習園の指導計画を理解し、指導案を立案し、設定保育を実践する。</p> <p>実習期間を通じて、実習園の様々な職員とコミュニケーションを図り、家庭や地域社会にも目を向け理解を図り、幼稚園の機能や幼稚園教諭の職務全般について学ぶ。</p>	<p>実習事前打ち合わせ等での実習園の先生方からのオリエンテーションで、実習園について理解を深めておく</p> <p>実習記録の整理と、日誌や事例報告の作成をする</p> <p>配属クラスの担任のアドバイス等を謙虚に受け止め、反省に基づく改善に努め、実習の具体的目標の設定をする</p> <p>担任の指導のもと、子どもの実態の把握に努め、教材研究を行い、部分保育に向け準備する</p> <p>担任の指導のもと、子どもの実態の把握と理解に努め、指導案の作成、教材研究を行い、設定保育に向け準備する</p> <p>これまでの課題を振り返り、新たな目標を設定する。また提出物状況の確認や日誌等を見直しておく</p> <p>(予習・復習に30時間必要)</p>	
教科書	使用しない		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		
学習成果の評価方法	実習園からの評価(50%)、課題等の提出状況(50%)		
特記すべき事項	教育実習の単位を取得していること。実習を行うためには、教育実習指導を履修し、各自で希望する実習園を選定し調整を行ったうえで内諾を得ることが必要となります。実習に当たっては、別途給食費等の費用が必要になることがあります。		
質問・相談等の受付	実習中の質問や相談については、電話にて受け付ける。		

科目	乳児保育	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設においての乳児保育の意義・目的・役割などを学ぶ。出生してから著しく成長発達していく乳児の生活や遊びの実態を知り、3歳未満児の保育について理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び、保護者や地域の関係機関との連携について理解する。		
学習成果の 評価基準	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷や役割を理解し、3歳未満児の生活や遊びの実態、保育内容や等理解する。 これらの理解度を測るために、授業内発表で評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス	「赤ちゃんとのかかわり」を読んでおく	
2.	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	教科書 第1回を読んでおく	
3.	乳児保育の役割と機能	教科書 第2回を読んでおく	
4.	乳児保育における養護及び教育	教科書 第3回を読んでおく	
5.	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書 第4回を読んでおく	
6.	保育所における乳児保育と保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	教科書 第5回を読んでおく	
7.	家庭的保育等における乳児保育 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書 第6回を読んでおく	
8.	3歳未満児の生活と環境	教科書 第7回を読んでおく	
9.	3歳未満児の遊びと環境	教科書 第8回を読んでおく	
10.	3歳以上児の保育に移行する時期の保育		
11.	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書 第9回を読んでおく	
12.	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書 第10回を読んでおく	
13.	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書 第11回を読んでおく	
14.	職員間の連携・連帯 保護者との連携・連帯 自治体や値域の関係機関との連携・協働	教科書 第12回、第13回を読んでおく	
15.	本授業でのまとめ		
教科書	『講義で学ぶ、乳児保育』わかば社 『赤ちゃんとのかかわり』子どもと保育研究所ふるほ		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 授業内課題 30% 授業内発表 30% レポート 20%		
特記すべき 事項	保育士資格取得必修 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の受付	授業の終わりに声をかけてください。		

科目	乳児保育	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	現代における乳児を取り巻く環境について知り、教育・保育施設においての乳児保育の意義・目的・役割など保育者の日々の実践に学ぶ。乳児の生活や遊びの実際を知り、事例等を通して検討する中で学び、子ども一人ひとりを大切にする乳幼児保育とその計画について理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 これらを踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。		
学習成果の評価基準	乳児保育の課題と現状を理解し、3歳未満児の発育・発達を支える保育の計画を作成できる。また、保護者や関係機関との連携のとり方を理解する。これらの理解度を測るために、授業内発表で評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス	「子どものことばの発達が気になる保護者・保育者の方へ」を読んでおく	
2.	子どもと保育士等との関係の重要性	教科書 第1・2回を読んでおく	
3.	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書 第3回を読んでおく	
4.	子どもの体験と学びの芽生え 新生児から歩行確立まで自分の体を通して学ぶ	教科書 第4回を読んでおく	
5.	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書 第5回を読んでおく	
6.	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書 第6回を読んでおく	
7.	3歳未満児の発育と発達を踏まえた生活と援助の実際 沐浴・調乳・着脱・排泄の実際	教科書 第7回を読んでおく	
8.	3歳未満児の発育と発達を踏まえた遊びと援助の実際 育児担当制保育について	教科書 第8回を読んでおく	
9.	子ども同士の関わりとその援助の実際	教科書 第9回を読んでおく	
10.	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書 第10回を読んでおく	
11.	集団での生活における配慮	教科書 第11回を読んでおく	
12.	環境の変化や移行に対する配慮	教科書 第12回を読んでおく	
13.	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書 第13回・14回を読んでおく	
14.	個別的な指導計画と集団の指導計画		
15.	本授業でのまとめ		
教科書	「演習で学ぶ、乳児保育」わかば社 「子どものことばの発達が気になる保護者・保育者の方へ」子どもと保育研究所ぶろほ		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
学習成果の評価方法	授業態度 20% 授業内課題 30% 授業内発表 20% レポート 30%		
特記すべき事項	保育士資格取得必修 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業の終わりに声をかけてください。		

科 目	子どもの健康と安全	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	成長発達の著しい乳幼児期には、その段階ごとに発達課題もめまぐるしく変化していく。子どもは、一人で成長することは困難であり、周囲の温かいサポートが不可欠である。また、病気・不慮の事故など予期せぬ事態も起こりやすいため、保育者のリスクマネジメントの意識も問われる。本科目では、「子どもの保健」で学んだ基礎知識を基に、子どもの健康及び安全にかかわる実践上の留意点を学習する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（2）に対応する。		
到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 近年の保健衛生の動向を踏まえ保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良時や応急処置・緊急時の対応について、具体的に理解する。 4. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的な取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。		
学習成果の評価基準	講義と演習をミックスした授業の展開の中で、課題レポート内容・積極性や意欲的に取り組む姿勢などの受講態度も評価とする。 筆記試験と実技試験を実施し、授業に対する理解度も確認する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	子どもの健康と保育の環境	教科書 第1講、配布資料	
2 .	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	教科書 第2講、配布資料	
3 .	集団の中の感染予防・衛生管理	教科書 第3.8講、配布資料	
4 .	集団の中の感染予防・衛生管理 演習	教科書 第3.8講、配布資料	
5 .	事故防止および安全対策	教科書 第4講、配布資料	
6 .	災害への備えと危機管理	教科書 第5講、配布資料	
7 .	体調不良や傷害が発生した場合の対応	教科書 第6講、配布資料	
8 .	救急処置および救急蘇生法	教科書 第7講、配布資料	
9 .	保育における保健的対応の基本的考え方	教科書 第9講、配布資料	
10 .	3歳未満児への適切な対応	教科書 第10講、配布資料	
11 .	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	教科書 第11講、配布資料	
12 .	障害のある子どもへの適切な対応	教科書 第12講、配布資料	
13 .	職員間の連携・協働と組織的な取り組み	教科書 第13講、配布資料	
14 .	保育における保健計画および評価	教科書 第14講、配布資料	
15 .	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携	教科書 第15講、配布資料	
教科書	新・基本保育シリーズ 子どもの健康と安全 中央法規出版		
参考書	救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編 へるす出版		
学習成果の評価方法	課題（20％）、受講態度（20％）、定期試験（60％） 課題や技術については、その都度助言を行う。		
特記すべき事項	実務経験 看護師（11年）、保健師（3年） 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	子ども家庭支援論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	中禮裕子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	多様化する子育て家庭形態と家族構成を理解し支援の意義・目的を公的民間的支援体制を通じて学ぶ。ニーズに応じた多面的支援展開と実践方法や相談技術を学ぶ。専門機関や他者との協働支援を理解し地域社会での活用を学ぶ。授業は教科書・PP・DVDを使用する。(レポート・ロールプレイ・小テスト・発表)を授業中に実施する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
到達目標	子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し自分の考えを述べる。保育士の専門性を活かした子育て家庭支援の意義と支援体制を十分に理解し説明できる。子育て家庭のニーズに応じた多面的な支援の展開と実践方法や相談技術を学び、事例の子育て家庭の支援方法を工夫、応用、実践できる(レポート・ロールプレイ・発表)。専門機関や他者と協働する支援を理解し地域社会で活用できる。		
学習成果の評価基準	「保育士の専門性を活かし支援の意義・目的・支援体制を理解し説明できる。支援方法を工夫・応用・実践できる。専門機関や他者と協働する支援を地域社会で活用できる。」の到達度確認テスト(定期試験)を実施し評価する。定期試験で6割以上の解答ができる。授業中の積極的な活動(レポート10%・ロールプレイ10%・小テスト10%・発表10%)は「受講態度」の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (1) 子ども家庭支援の意義と必要性 <教科書 第1講>	シラバス・教科書・参考書 復習: 第1講 振り返り2時間 予習: 第2講 下調べ2時間	
2.	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (2) 子ども家庭支援の目的と機能 <教科書 第2講>	復習: 第2講 予習: 第5講	
3.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第5講> (1) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	復習: 第5講 予習: 第6講	
4.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第6講> (2) 子どもの育ちの喜びの共有	復習: 第6講 予習: 第7講	
5.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第7講> (3) 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	復習: 第7講 予習: 第8講 (ロールプレイ)	
6.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第8講> (4) 保育士に求められる基本態度(受容的関わり・秘密保持・自己決定の尊重)	復習: 第8講 予習: 第9講	
7.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第9講> (5) 家庭の状況に応じた支援	復習: 第9講 予習: 第10講	
8.	2. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 <教科書 第10講> (6) 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	復習: 第10講 予習: 第4講 (小テスト)	
9.	3. 子育て家庭に対する支援の体制 <教科書 第4講> (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源	復習: 第4講 予習: 第3講	
10.	3. 子育て家庭に対する支援の体制 <教科書 第3講> (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	復習: 第3講 予習: 第11講	
11.	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <教科書 第11講> (1) 子ども家庭支援の内容と対象	復習: 第11講 予習: 第12講	
12.	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <教科書 第12講> (2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援	復習: 第12講 予習: 第13講	
13.	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <教科書 第13講> (3) 地域の子育て家庭への支援	復習: 第13講 予習: 第14講 (発表)	
14.	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <教科書 第14講> (4) 要保護児童等およびその家庭に対する支援	復習: 第14講 予習: 第15講	
15.	4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <教科書 第15講> (5) 子ども家庭支援に関する課題と展望	復習: 第15講 まとめ 定期試験範囲	
教科書	松原康雄・村田典子・南野奈津子 編『子ども家庭支援論』中央法規出版株式会社		
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館・厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館		
学習成果の評価方法	到達度確認テスト(定期試験60%)を実施し評価する。定期試験は持ち込み許可(ノート・配付プリントのみ)です。授業内の積極的な活動(レポート10%・ロールプレイ10%・小テスト10%・発表10%)は「受講態度」の評価とします。		
特記すべき事項	授業中は私語・携帯電話は厳禁ですが、質問・体調不良・早退・遅刻は例外です。必ず申し出て下さい。担当者は保育所や療育センターで保育士7年余り、児童相談所委託の子ども家庭相談員10年余りの実務経験を有しています。		
質問・相談等の受付	授業時に用紙を準備します。必要な人は、記入して提出してください。次回授業時に回答若しくは、内容によっては個人的に対応します。		

科 目	社会的養護	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>家庭での養育を受けられない子ども達は、社会的養護によって守られ、生活をしている。本授業では、現代社会における社会的養護の意義や基本を学び、社会的養護の制度や対象、関係する専門職等について理解を深める。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する 5. 社会的養護の現状と課題について理解する 		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している5点の到達度を測るために、授業課題と到達度確認テストを実施し、評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	現代社会と社会的養護の意義 社会的養護の理念と概念、社会的養護の基本原則	教科書第1章を読む	
2 .	社会的養護の歴史的変遷	教科書第2章を読む	
3 .	子どもの人権擁護と社会的養護	教科書第3章を読む	
4 .	社会的養護の制度と実施体系：社会的養護の制度と法体系、社会的養護の仕組みと実施体系、家庭養護と施設養護	教科書第4章を読む	
5 .	社会的養護の対象・形態・課題1：乳児院、母子生活支援施設	教科書第5章を読む	
6 .	社会的養護の対象・形態・課題2：児童養護施設、児童心理治療施設	教科書第5章を読む	
7 .	社会的養護の対象・形態・課題3：児童自立支援施設、自立援助ホーム	教科書第5章を読む	
8 .	社会的養護の対象・形態・課題4：里親、ファミリーホーム	教科書第6章を読む	
9 .	社会的養護の対象・形態・課題5：障害児入所施設、児童発達支援センター	教科書第7章を読む	
10 .	社会的養護の専門職と倫理：社会的養護における保育士等の倫理と責務	教科書第8章を読む	
11 .	社会的養護とソーシャルワーク	教科書第9章を読む	
12 .	社会的養護の現状と課題：社会的養護に関する社会的状況、施設等の運営管理	教科書第10章を読む	
13 .	社会的養護の現状と課題：被措置児童等の虐待防止、社会的養護と地域福祉	配布資料を読む	
14 .	社会的養護と子どもアドボカシー	配布資料を読む	
15 .	まとめ	授業で学んだことをまとめ、理解を確認する	
教科書	喜多一憲（監修）・堀場純矢（編）(2020):社会的養護I。みらい。		
参考書	堀正嗣(2020):子どもの心の声を聴く～子どもアドボカシー入門～。岩波書店。		
学習成果の評価方法	授業課題50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科目	社会的養護	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	岡田健一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>家庭での養育を受けられない子ども達は、社会的養護によって守られ、生活をしている。 本授業では、社会的養護の実際を具体的に学ぶと共に、施設で生活している子ども達の日常生活を支援し、成長を促していく具体的な方法と技術について、理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する 2.施設養護及び家庭養護の実際について理解する 3.社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する 4.社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する 5.社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する 		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している5点の到達度を測るために、授業課題と到達度確認テストを実施し、評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	社会的養護の基礎的理解	教科書第1章を読む	
2.	社会的養護の内容：社会的養護における子どもの理解、日常生活支援、治療的支援、自立支援、社会的養護における家庭支援	教科書第2章を読む	
3.	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価1：アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価	教科書第3章を読む	
4.	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価2：アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価	教科書第3章を読む	
5.	社会的養護に関わる専門的技術：保育の専門性に関わる知識・技術とその実践、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	教科書第4章を読む	
6.	社会的養護の実際1：施設養護(乳児院)の生活特性及び実際	教科書第5章を読む	
7.	社会的養護の実際2：施設養護(児童養護施設)の生活特性及び実際	教科書第5章を読む	
8.	社会的養護の実際3：施設養護(地域小規模児童養護施設)の生活特性及び実際	教科書第5章を読む	
9.	社会的養護の実際4：施設養護(児童家庭支援センター)の生活特性及び実際	教科書第5章を読む	
10.	社会的養護の実際5：家庭養護(里親)の生活特性及び実際	教科書第6章を読む	
11.	社会的養護の実際6：家庭養護(ファミリーホーム)の生活特性及び実際	教科書第6章を読む	
12.	社会的養護の実際7：施設養護(障害児入所施設)の生活特性及び実際	教科書第7章を読む	
13.	社会的養護の実際8：施設養護(児童発達支援センター)の生活特性及び実際	教科書第7章を読む	
14.	今後の課題と展望：社会的養護の課題と展望	教科書第8章を読む	
15.	まとめ	授業で学んだことをまとめ、理解を確認する	
教科書	喜多一憲(監修)・堀場純矢(編)(2019):社会的養護II。みらい。		
参考書	喜多一憲(監修)・堀場純矢(編)(2020):社会的養護I。みらい。		
学習成果の評価方法	授業課題50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科 目	特別支援の理解	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・牧野桂一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業は、特別支援教育および障害児保育等、特別な支援が必要な子どもへの関わり方について学ぶ授業である。発達障害や、軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を生きている子どもが、園での生活で直面している学習上または生活上の困難を理解するとともに、子どもが主体的に達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていく支援ができるよう、必要な知識や支援方法を理解する。合わせて、他の職員や関係機関との連携についても理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1. 特別支援教育・障害児保育の基本的な考え方と制度を理解できている 2. 特別な支援が必要な子どもとその支援方法が理解できている 3. 保護者支援や他機関との連携について、最低限の知識を身につけている		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している3点の到達度を測るために、授業課題と到達度確認テスト、レポート課題を実施し、評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷	教科書第1章を読む	
2.	障害児保育・特別支援教育の基本：インクルーシブ教育・保育および合理的配慮	教科書第2章を読む	
3.	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法1：肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児	教科書第3章を読む	
4.	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法2：知的障害児	教科書第4章を読む	
5.	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法3：ADHD、LD	教科書第5章を読む	
6.	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法4：ASD	教科書第5章を読む	
7.	特別の支援を必要とする子ども理解と支援方法5：重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を要する子ども	配布資料を読む	
8.	保育・教育の実際1：保育・教育課程における個別支援計画の作成	教科書第6章を読む	
9.	保育・教育の実際2：個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合い、障害児保育における子どもの健康と安全、職員間の連携・協働	教科書第7・8・9章を読む	
10.	家庭及び自治体・関係機関との連携1：保護者や家族	教科書第10章を読む	
11.	家庭及び自治体・関係機関との連携2：自治体や関係機関・小学校	教科書第11、12章を読む	
12.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題：保健・医療、福祉・教育、支援の場の広がりにつながり	教科書13・14・15章を読む	
13.	障害児保育・特別支援教育のまとめ1（担当：牧野）	配布資料、テキストを読む	
14.	障害児保育・特別支援教育のまとめ2（担当：牧野）	配布資料、テキストを読む	
15.	障害児保育・特別支援教育のまとめ3（担当：牧野）	配布資料、テキストを読む	
教科書	井村圭壯・今井慶宗（編著）(2016):障がい児保育の基本と課題・学文社・ 牧野桂一(2013):受けとめる保育・エイデル研究所・		
参考書	牧野先生レポートで使用するテキスト：牧野桂一(2004):子らのいのちに照らされて・樹心社・		
学習成果の評価方法	岡田授業課題70%、牧野先生レポート+到達度確認テスト30%		
特記すべき事項	保育心理士(二種)必須 集中講義を含む		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科目	保育心理演習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・岡田健一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育心理士としての基礎的概念を理解し、子どもの気質的、または環境的背景の観察や把握、および支援方法について学ぶ。さらに、大人にとって「問題行動」と思える子どもの言動を深く理解し、個別支援実習に備え、その子に合わせた支援を考える。本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。		
到達目標	プレイセラピーの基本や、子どもの内的イメージへの理解を深めることができるとともに、子どもの心やその表現に寄り添う姿勢を身につけることができる。「問題行動」を子ども側から理解し、子どもの内的なメッセージを受け取る姿勢を身につけることができる。さらに、個別支援実習に向けた準備が整えられる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているプレイセラピーの基本理解や、子どもの内的世界への理解の達成度を測るために、到達度確認課題を実施し評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	保育とセラピー	子どもの「遊び」の意義について1年次に学習したことを整理しておく	
2.	プレイセラピーの基本	アクスラインの8原則について復習する	
3.	事例で学ぶプレイセラピー	慢性反復性トラウマについて復習しておく	
4.	保育現場におけるプレイセラピーの活用	子どもの頃に夢中になった遊びを考えておく	
5.	事例で学ぶ表現療法 アートセラピー	象徴表現について復習する	
6.	事例で学ぶ表現療法 サンドプレイセラピー	象徴表現について復習する	
7.	体験で学ぶ表現療法 コラージュ療法	配布資料を復習する	
8.	体験で学ぶ表現療法 クレパス画・スクイグル	配布資料を復習する	
9.	子どもの「問題行動」の理解	子どもの「問題行動」の例を探してくる	
10.	「問題行動」場面における子どもの心の理解	「問題行動」場面における子どもの理解を考えてくる	
11.	子ども理解に合わせた日常での支援の工夫	支援の工夫を自分でまとめる	
12.	教科書発表（前半）	教科書を読みレポートを作成してくる	
13.	教科書発表（後半）	教科書を読み、レポートを作成してくる	
14.	事例検討：ケースの見立てと個別支援計画	事例理解のポイントを復習する	
15.	個別支援実習に向けて	個別支援実習の準備を整える	
教科書	山田真理子（2004）：子ども・こころ・そだち 機微を生きる ，エイデル研究所		
参考書	牧野桂一・山田真理子（編）（2007）：保育心理，樹心社．		
学習成果の評価方法	受講態度（20％）教科書発表（20％）授業内課題（60％）		
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 個別支援実習を希望する学生は必ず受講すること 河村：臨床心理士として11年の実務経験，岡田：臨床心理士として19年の実務経験		
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く		

科 目	保育人間学	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	<p>真宗、仏教に関する基本的な用語を学びつつ、真宗保育の理念として大谷保育協会が掲げる「本願に生き、ともに育ちあう保育」について共に考えていく。 本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・真宗、仏教に関する基本的な用語を理解し、自らの課題に引きつけて考えることができる。 ・保育とは、人間とは何かについての問いをもつことの大切さを知り、視野を広げ、豊かな人間性を養うことができる。 ・真宗保育とは何かという課題をもつことができる。 （知識、思考力、判断力）		
学習成果の 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の達成度を測るために、毎回の振り返りやまとめを実施して評価する。 ・思考力の達成度を測るために、小レポートを実施して評価する。 ・判断力の達成度を測るために、期末レポートを実施して評価する。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	ガイダンス シラバスの確認	シラバスを読む・ガイダンスの内容を振り返る	
2 .	人間として誕生した意味	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
3 .	命の連続性と尊厳 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
4 .	幸せの物差し	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
5 .	私とは何か	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
6 .	悩みを宝物として 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
7 .	保育園・幼稚園・こども園の特性を生かした支援	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
8 .	ともに生きともに育ちあう	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
9 .	学び続ける 期末レポートに向けて	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『真宗保育のカリキュラム入門』大谷保育協会		
参考書	『いっしょに大きくなぁ～れ はじめて真宗保育にであう本 』東本願寺出版		
学習成果の 評価方法	「毎回の振り返り」（40%）「小レポート」（30%）、「期末レポート」（30%）		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科 目	保育実習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	保育実習は法令に従い、これまで習得した知識や技術を基盤とし、実際の現場にて総合的に実践する力を養う。また、理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。 本授業は幼児教育学科の学習成果(6)に対応する。		
到達目標	保育所の役割や機能について理解を深め、子どもの観察や関わりの視点を明確にする。また、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等実際に取り組み、自己の課題を明確化する。個々の関心に基づく得意分野を持ち、保育・幼児教育の実践に活かすことができる(主体性)。		
学習成果の 評価基準	到達目標を達成し保育現場において責任を持って保育が展開できるか、現場での評価、巡回指導、提出物の提出状況、日誌などにより総合的に判断し評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> 養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の援助や関わり 保育所の生活の流れや展開の把握 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 関係機関や地域社会との連携・協働 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 自己の課題の明確化 	予習：実習園やクラスについて調べる 復習：本日のふりかえり及び日誌等の記録作成 (予習・復習で30時間)	
教科書	『保育実習・幼稚園実習』太田光洋(2018)保育出版会		
参考書	『遊びの指導』幼少年教育研究所(2009)同文書院 『イラストで読む!幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見(著編)(2017)学		
学習成果の 評価方法	実習園評価(60%程度)大学評価(40%程度)		
特記すべき 事項	必ず保育実習指導を履修すること。実習の準備(書類等の提出状況や身だしなみ等)ができていない場合は実習を開始しない。別途、交通費や給食費等の実費がかかる場合がある。実習時間は概ね10日間、60時間以上となる		
質問・相談等 の 受 付	授業前後の教室、または空き時間に研究室にて受け付ける		

科 目	個別支援実習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。児童福祉施設等において約2週間の実習を行い、対象児を1名決めて理解を深めるとともに、個別の支援の計画を立てて、可能であれば実際に実施し、支援の効果を評価する。本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の支援が必要な子どもに気づき、対象児の理解を深めることができる 2. 対象児の理解に基づき、個別の支援計画を立てることができる 3. 可能であれば、支援の計画を実施し、支援の効果を評価できる 		
学習成果の 評価基準	<p>到達目標に明示している3点の到達度を測るために、実習巡回時の様子に注目するとともに、実習記録の確認を行う。合わせて、実習施設の評価と、実習の準備状況についても考慮する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>(実習前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援を必要としている子どもを選び、対象児とする ・対象児の観察、職員さんへの質問（守秘義務に配慮）を通して、対象児の情報を集める ・対象児の理解と支援計画（案）を作成する <p>(個別指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象児の理解と支援の計画（案）について、個別の指導を受ける <p>(実習後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員さんと相談しながら、支援の計画を決定する ・可能な範囲で、計画した支援を実施する <p>(注意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援実習指導とセットで履修すること。一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格とする ・別途行う実習準備に参加しない場合や、期限内の書類の提出がない場合、課題がクリアできない場合は、実習を開始できない ・抗体検査や予防接種、細菌検査等、実習受け入れに必要な準備が整わない場合は、実習を開始できない ・実習には、実習費および、食事代等の実費が必要となる 	<p>実習時間に起きたことの記録（実習記録）を作成し、対象児の理解と自己理解を深める</p> <p>(予習・復習で30時間)</p>	
教科書	岡田健一(2022):個別支援実習ワークブック。(授業内で配布)		
参考書	牧野桂一・山田真理子(編)(2007):保育心理.樹心社.		
学習成果の 評価方法	実習施設による評価・実習事前準備30% 大学評価70%		
特記すべき 事項	保育心理士（二種）必須 注意点については、授業計画（授業内容）も参照のこと		
質問・相談等 の受付	実習中の相談は、個別にお知らせする連絡先で受け付ける。		

科 目	保育実習指導	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育実習では、認可保育所での実習をとおして、これまで習得した知識や技術を基盤とし、総合的に実践する力を養うことで、理論と実践の関係について習熟させることを目的としている。 本授業は幼児教育学科の学習成果（4）に対応する。		
到達目標	保育実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする（判断力）。		
学習成果の評価基準	保育現場において責任を持って実習ができるか、それまでの事業態度、提出物の期限厳守、身だしなみ、自己課題の明確化などを通して、総合的に判断し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1 .	オリエンテーション 保育実習の意義と目的、保育実習指導 の進め方について	シラバスを確認しておく	
2 .	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	教科書などを読んでおく	
3 .	子どもの保育と保護者支援	教科書などを読んでおく	
4 .	子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり	教科書などを読んでおく	
5 .	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	課題作成	
6 .	保育実習の目標の明確化	課題作成	
7 .	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	課題作成	
8 .	保育の知識・技術を活かした保育実践と指導計画の作成	課題作成	
9 .	実習の心構えと身だしなみ	課題作成	
10 .	保育士の専門性と職業倫理	課題作成	
11 .	実習の総括と自己評価	課題作成	
12 .	課題の明確化	課題作成	
13 .	課題の明確化	課題作成	
14 .	保育実習報告会	発表の準備をしておく	
15 .	保育実習報告会	発表の準備をしておく	
教科書	『保育所実習・幼稚園教育実習』太田光洋（2018）保育出版会 『遊びの指導』幼少年教育研究所（2009）同文書院		
参考書	『手遊び百科』植田 編（2006）ひかりのくに 『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』無藤・汐見（著編）（2017）学		
学習成果の評価方法	受講態度（30%）手続き（20%）事前課題（20%）事後課題（20%）		
特記すべき事項	保育実習 に向けての準備、振り返りとなりますので、有意義な実習となるよう学びの姿勢で取り組んでください。 各授業において授業外での実習に向けた準備（予習・復習）60分程度を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業前後または空き時間に研究室まで		

科 目	個別支援実習指導	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。個別支援実習での取り組みを、事例検討という形で振り返りながら、保育心理士としての子ども理解の視点と具体的な支援を学ぶ。単位取得を希望する学生は、自分の個別支援実習の様子を発表すること。 本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。</p>		
到達目標	<p>1．実習での取り組みを事例レポートの形でまとめ、報告できる 2．対象児の生活の様子から、対象児の願いとニーズを理解することができる 3．対象児の安心安全な生活保証し、成長を促す支援を考えることができる 4．支援者としての自分を振り返り、自己の課題と成長の方法を明らかにする</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している1を測るため、事例発表を評価する。4を測るため、最終レポートを評価する。2および3については、事例発表、他の学生の発表へのコメント、最終レポートにて評価する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1．	オリエンテーション	授業後に事例レポートを作成・提出し、個別の添削指導を受ける	
2．	事例検討 1	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
3．	事例検討 2	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
4．	事例検討 3	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
5．	事例検討 4	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
6．	事例検討 5	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
7．	事例検討 6	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
8．	事例検討 7	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
9．	事例検討 8	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
10．	事例検討 9	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
11．	事例検討 1 0	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
12．	事例検討 1 1	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
13．	事例検討 1 2	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
14．	事例検討 1 3	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
15．	事例検討 1 4	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
教科書	岡田健一(2022):個別支援実習ワークブック.		
参考書	牧野桂一・山田真理子(2007):保育心理.樹心社.		
学習成果の評価方法	事例発表30%、事例検討への積極的参加50%、最終レポート20%		
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須原則、個別支援実習とセットで履修すること。単位の取得には、事例報告が必要。単位取得希望者（事例報告者）が14名を超える場合は、15回		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話が研究室で受け付ける。		

科 目	保育実習（保育所）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・村上有希・永山 寛	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習Ⅰ（保育所）では、認可保育園で60時間（原則10日間）以上の保育実習を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（6）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 		
学習成果の評価基準	上記の到達目標に対して、学びの具体的な方法を学生自身で計画し取り組む。実習先での実習の取組と、その記録を総合して評価とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前までに事前打ち合わせを行うこと ・実習先からの指示に対して事前準備や対応を行うこと ・実習の記録に必要な事項が記録されていること ・実習中は、科目担当教員に加え、巡回担当教員、実習先の実習指導者の支持を受け、学びを深めること ・実習の学びや、実習目標についての取組を振り返ること <p>（予習・復習で30時間）</p>	
教科書	大豆生田啓友ら（編）（2020）：これからの時代の保育者養成実習ガイド・中央法規。		
参考書	無藤隆・汐見稔幸（編）（2017）：イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK。学陽書房		
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、園評価（50%）、実習記録（30%）		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導（保育所）と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。 ・保育実習（保育所）には、実習のための費用が必要となる（細菌検査、給食の実費等）。 		
質問・相談等の受付	研究室にて受け付ける		

科 目	保育実習（施設）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	村上有希・河村陽子・永山 寛	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。</p> <p>保育実習Ⅰ（施設）では、保育所をのぞく児童福祉施設等で保育実習を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（6）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 		
学習成果の評価基準	<p>上記の目標に対して、学びの具体的な方法を学生自身で計画し取り組む。実習終了後、自身の取り組みと目標の達成状況に対して自己評価を行う。児童福祉施設等での実習の取り組みと、その記録、実習後の自己評価での省察を総合して評価とする。</p>		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>< 児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p>実習日数はおおむね10日間（60時間以上）とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前までに、事前打ち合わせを行うこと ・実習施設からの指示に対して事前準備や、対応を行うこと ・実習の記録に必要事項が記録されていること ・実習での学びを日誌へ記載すること ・実習での学びや、実習目標についての取り組みを、振り返り、全体のまとめを作成すること ・実習中は、科目担当教員に加え、巡回担当教員、施設の実習指導者の指導を受け、学びを深めること <p>（予習・復習で30時間）</p>	
教科書	<p>「保育福祉小六法2021年版」保育福祉小六法編集委員会（編）：2021年、みらい</p> <p>「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友、他（編著）：2020年、中央法規出版</p>		
参考書	<p>駒井美智子（編著）（2014）：施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後学習 - . 萌文書林 .</p>		
学習成果の評価方法	<p>施設評価 50%、実習記録 30%、課題への取り組み 20%</p> <p>実習施設評価、記録物の内容については、授業内でフィードバックする。</p>		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導（施設）と合わせて単位認定を行うため、合わせて履修すること ・実習に必要な感染予防が必要である、さらに実費（食事・宿泊代）が伴う場合がある 		
質問・相談等の受付	<p>メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）</p>		

科目	保育実習指導（保育所）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・村上有希・永山 寛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習指導（保育所）では、保育実習Ⅰ（保育所）に必要な実習指導を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（4）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 		
学習成果の評価基準	<p><実習前>・到達目標に明示している、保育実習（保育所）にかかる1～4について理解度を測るために確認テスト・課題や口頭での確認等を実施し評価する（30）・保育実習（保育所）にかかる必要な手続きを進められる（50）</p> <p><実習後>・到達目標に明示している5について、課題やグループワーク等を実施し評価する（20）</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	シラパスを読んでおく	
2.	保育実習の意義（2）実習の目的	実習の目的を復習する	
3.	保育実習の意義（3）実習の概要、実習先との手続きについて	実習の手続きを復習する	
4.	実習の内容と課題の明確化（2）実習の内容	実習の内容を復習する	
5.	実習の内容と課題の明確化（3）実習の課題、実習目標の作成について	実習の課題について復習する	
6.	実習に際しての留意事項（2）子どもの人権と最善の利益の考慮	児童の権利に関する条約を予習しておく	
7.	実習に際しての留意事項（3）プライバシーの保護と守秘義務	守秘義務について復習する	
8.	実習に際しての留意事項（3）実習生としての心構え、事前打ち合わせについて	事前打ち合わせについて復習する	
9.	実習の計画と記録（1）実習における計画と実践	学んだことを復習する	
10.	実習の計画と記録（2）実習における計画と実践	学んだことを復習する	
11.	実習の計画と記録（2）実習における観察、記録及び評価	記録を整理しておく	
12.	実習の計画と記録（2）実習における観察、記録及び評価	記録を整理しておく	
13.	事後指導における実習の総括と課題の明確化（1）実習の総括と自己評価	実習の振り返りをしておく	
14.	事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）課題の明確化	実習の振り返りをしておく	
15.	事後指導における実習の総括と課題の明確化（2）課題の明確化	次回の実習へ向けて課題を整理しておく	
教科書	大豆生田啓友ら編著『これからの時代の保育者養成実習ガイド』中央法規2020		
参考書	無藤隆・汐見稔幸編『イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBook』学陽書房2017		
学習成果の評価方法	受講態度・実習に関する手続き（50%）、事前学習（30%）、事後学習（20%）		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習（保育所）と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。 ・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること。 		
質問・相談等の受付	研究室にて受け付ける		

科目	保育実習指導（施設）	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	村上有希・河村陽子・永山 寛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。 保育実習指導Ⅰ（施設）では、保育実習（施設）に必要な実習指導を行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果（4）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 		
学習成果の評価基準	<p>実習前 ・保育実習（施設）にかかる必要な手続きが行えることを評価する ・実習の目標について具体的な課題に気づき、取り組みの方法を自身で計画したかを評価する 実習後 ・自身の目標の達成状況、実習での取り組みについて自己評価をし、自身の課題への学びを評価する ・実習の報告を行うことで学びを共有し、他の施設の概要への気づきを評価する。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育実習の意義・目的と概要、実習指導授業の進め方	疑問点があれば質問を考えておく	
2.	実習施設の理解：発表準備	教科書の該当する部分を読んでおく	
3.	実習施設の理解：発表	発表準備を行う	
4.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	自分の実習予定を確認する	
5.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	基本情報を覚えてくる	
6.	実習に際しての留意事項（倫理綱領、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、観察の視点、記録および評価）	教科書の該当する部分を読んでおく	
7.	実習目標の作成 1	実習目標を立てる	
8.	介護の体験	学んだことを復習しておく	
9.	実習目標の作成 2	実習目標を完成させる	
10.	直前指導、実習生としての心構え	実習準備の総まとめを行う	
11.	児童福祉施設等実習の事後指導 1 実習の統括と自己評価	実習日誌等で自身の実習の振り返りしておく	
12.	児童福祉施設等実習の事後指導 2 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する	
13.	児童福祉施設等実習の事後指導 3 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する	
14.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	報告会の準備	
15.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	報告会の振り返り 実習の学びの振り返り	
教科書	「保育福祉小六法2021年版」保育福祉小六法編集委員会（編）：2021年、みらい 「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友、他（編著）：2020年、中央法規出版		
参考書	岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲ほか（編）（2013）：保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック・みらい。		
学習成果の評価方法	受講態度・手続き 40%、事前学習 15%、事後学習 45% 手続き等、随時必要に応じて実施できているかの確認を行い、フィードバックします。		
特記すべき事項	・保育実習（施設）と合わせて単位認定を行うため、合わせて履修すること ・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）		